



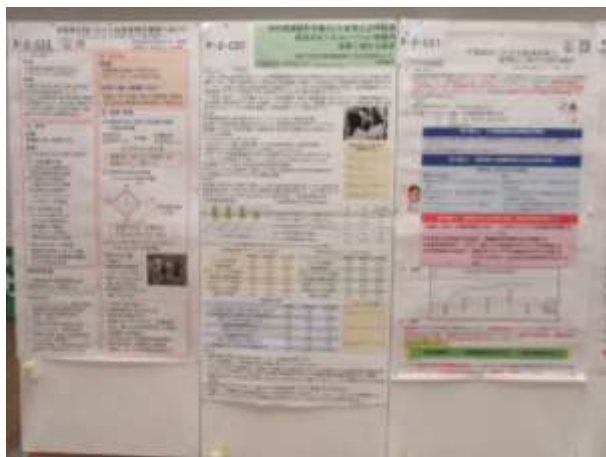
第44回日本重症心身障害学会学術集会に参加して

4-2病棟 高木 幸恵

平成30年9月28日(金)・29日(土)の2日間、第44回日本重症心身障害学会学術集会が東京都江戸川区のタワーホール船堀にて開催されました。府中療育センターからは、医師・看護師・理学療法士・臨床工学士・保育士など多くの職種が演題発表を行いました。私は「手指衛生に対する職員の意識改革に向けた取組」というテーマでポスター発表をさせて頂きました。1利用者あたり1日の手指衛生回数を増やすことや、それを維持するための意識改革についてどのような関わり大切であったかを振り返り報告してきました。

また、富永医師が「原因不明の進行性疾患で経過し、65歳でSENDAと診断された重症心身障害者の1例」という演題で口演発表を行いました。SENDAは原因遺伝子であるWDR45遺伝子の解明がなされたのも2013年とまだ5年ほどしかたっていない新しい疾患であることから、原因不明で経過している重症心身障害者の中にはSENDAのような新しい疾患が潜んでいる可能性は充分にあるということをお話されました。新しい疾患の症例であることから発表内容は興味深いものであり、活発な意見交換が行われました。

そして、シンポジウムでの「人工呼吸管理の院内から在宅まで」という講演は関心を持って聴講できました。滋賀県総合病院では、NICU後方支援を実施しており、在宅人工呼吸器の管理人数は110名、急性期の呼吸器管理から在宅に戻る際の呼吸器への移行を病棟看護師とともに臨床工学士が協働しながら関わっているというものでした。その中で、在宅での呼吸器の設置など、実際に臨床工学士が訪問し家族が呼吸器を使用しやすい場所に設置したり、SP02モニターは常に目の届く場所に設置するようにアドバイスをするという話を聴き、地域に寄り添う看護という点から、在宅生活への援助も積極的に関わっていくことが大切であると改めて考えさせられました。学会での刺激を受け、学んだこと、考えさせられたことを病棟に還元し、利用者サービスの向上に努めていきたいです。





第10回府中療育センター祭



指導科 丸山 秀子



10月19日(金)、20日(土)に「第10回府中療育センター祭」を行いました(展示部門は、10月17日～24日)。今年度は、当センターの開設50周年にあたり、センター祭の中で記念式典も合わせて行われました。

一日目は、お天気が不安定で雨予報となり、気温も上がりず寒い気候のため、屋内での開催となりましたが、二日目は、前日とは変わって秋晴れとなり、屋外での開催となりました。両日も、利用者、家族、地域の方々など多くの方が参加され、楽しい時間となりました。

2日間に渡りいろいろなブースも設けられました。“食べ物コーナー”では、「ほっこり野菜」や「やわらかおかき」、スイーツとして「みたらし団子」、「リンゴゼリー」「チョコアイス」を提供しました。お好みでトッピングもあり、食べ物を口にした利用者の方たちの笑顔や、満足そうな表情で美味しく味わっている様子を見ることができました。家族会からは綿あめを出していただき、色とりどりの綿あめで利用者の皆さんをはじめ、大人も子どもも嬉しそうに食べていました。



地域の作業所等の出店コーナーでは、パン、ホットドック、豆腐プリン、コロッケ、雑貨などバラエティに富んだ商品が並んでいました。販売開始と同時に長い列ができてすぐに完売するお店もあり、お店の方との会話も弾み、今年も大好評でした。

学校からの出店もあり、都立武蔵台学園、都立府中けやきの森学園の作品や都立農業高校の手作りジャムなどが販売され、あっという間に完売しました。

“ゲームコーナー”では、「ボッチャ」「ハロウィンカードゲーム」「さかなつり」を行い、職員やボランティアの方々と一緒に楽しみ盛り上がりしました。また、「美しい曲をあなた」を届けるディスクオルゴールやからくり人形のオルゴールでは、ゆったりとしたひとときを提供し、皆さんに楽しんでいただきました。



“感覚刺激コーナー”では、「センターの過去・現在・未来」をテーマに、タイムトンネルを通るとセンターの過去から未来を行き来することができ、タイムマシンに乗っている空間を思わせるような世界が広がっていました。

懐かしいセンターの映像なども鑑賞することができました。

イベント気分を盛り上げる「ネイル&タトゥー」では、アイドル写真やキティちゃんのキャラクターなど、頬や手の甲、腕にタトゥーをつけてオシャレを楽しむことができ、大好評でした。



19日は、院長先生のご挨拶を頂き、今年も恒例のハッピーバズーカを合図に、センター祭のイベントが始まりました！センターの皆さんの舞台発表も、個性豊かな内容が盛りだくさんでした。利用者や職員のパフォーマンスに笑いや歓声が響き渡りました。「人生の節目を祝う会」では、成人3名、還暦11名、古希3名

の利用者の方たちが、この日のために用意した衣装を着て参加しました。皆さん満面の笑みで、利用者一人一人にお祝いの言葉と記念のブーケが贈られ、とても素敵な舞台となりました。

20日は、「開設50周年記念式典」が午前の部を飾りました。当日は、来賓の方にもお越し頂き、祝辞をいただきました。また、後半のアトラクションでは、「音種♪」さんによる療育センターの歌のお披露目と、府中けやきの森学園和太鼓部の演奏がありました。療育センターの歌は、利用者さんの作詞で「音種♪」さんに曲をつけて頂いた歌です。タイトルは「にこにこのたねたち」です。素敵な曲に



出来上がり、感激のあまりに涙が溢れる人、演奏に酔いしれながら聞く人など、聞き惚れている様子が見え、聞かされた曲がうかがえました。和太鼓演奏では、学校から十数名の生徒さんと顧問の先生に来ていただき、威勢のよい迫力ある演奏を楽しむことができました。

午後は、全体制作「タイムマシンにお願い」のお披露目を行い、制作期間中に皆さんが貼ってくれたミニタイムマシンに乗って過去や未来に行ってやりたいことを発表しました。利用者さんの様々な思いを知ることが出来ました。

フィナーレは、「JULIE'S CLUB」による歌とダンスで、そのパフォーマンスは圧巻の一言につきます。素敵なドレス、衣装を身にまとい、子供から大人まで盛りだくさんの出し物で会場の皆さんを楽しませてくれました。会場が一つになり、今年も素晴らしいパフォーマンスを披露してくださいました。



最後は事務長の挨拶の後、ハッピーバズーカの合図で風船を空に飛ばし、センター祭は無事に終了いたしました。ボランティアの皆さんをはじめ、協力して下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

秋のミニ運動会

2-A病棟 鴻田 奈津美

2-A病棟では、9月21日(金)に秋のミニ運動会を開催しました。ミニ運動会では、ラジオ体操と応援合戦、借り物競走を行ないました。ミニ運動会がヒートアップしたところで借り物競走が始まりました。借り物競走は、病棟に貼ってある紙を1枚取り、そこに書かれた物を誰が早く持ってこられるかを競い合いました。利用者の中には、歩行やいざりなどで参加する方もいました。利用者と職員が一体となり白熱の競走が繰り広げられたことにより、病棟全体が大いに盛り上がり、ともにみんな笑顔で楽しんでいました。



第22回全国重症心身障害日中活動支援協議会

通所 金内 潤

10月11日(木)、12日(金)の2日間、滋賀県で行われた第22回全国重症心身障害日中活動支援協議会に参加しました。

初日は厚生労働省職員からの行政説明があり、「重症児(者)福祉サービス利用者が増え、それに伴い予算措置も増加しており、予算が増えることは関心の高さにもつながり、更に支援の質の向上が求められるようになる」との話がありました。引き続き行われた講演会では、国立成育医療センターが立ち上げた「もみじの家」の内多勝康氏から事業内容に関する報告がありました。新たな医療型短期入所施設の立ち上げ、そのことだけでも需要が多く、大変意義のあるものだと感じましたが、他施設からは「児者一貫の施設にしてほしい」「病院を退院して在宅へ戻る際の中間の機能を持たせてはどうか」と更なる機能拡大を要請するものがありました。

シンポジウムでは、それぞれの事業所での取組についての報告がありました。滋賀県内においても在宅の重症児(者)は増加し、施設利用者の重症度も上がっているとのことで、これまでのように事業所の役割が固定化していたままでは対応できないと考え、様々な取組を行っているとのことでした。具体的には、「高齢者の在宅支援事業所が重症児の地域ケアにも参加」「施設入所後もこれまで通っていた作業所も併用できるように」「呼吸器を使用している方の移送支援に、他事業所との連携」「訪問看護事業所が医ケア児を預かる多機能事業所に」「日常的に多機関が連携をとれる仕組みづくり」などの取組が挙げられていました。いずれの事業所もこれまでの自事業所の枠組みから一歩踏み出した取組を行い、「利用者増」「利用者の重症化」に対応する努力を行っていることがわかりました。

二日目は分科会が行われました。分科会では6施設からの発表があり、「支援力が低下した家族への支援方法」「重症児とのコミュニケーションツールの研究」など、私たちも普段感じている、業務への悩みや難しさに関する内容でした。そして今回は、当センターからも「気管切開術を受けたご利用者とそのご家族への関わり」というテーマで発表を行いました。長く施設を利用している間に、何らかの疾患が原因で医療的なケアが増えてしまうことは、多くの施設で起こりうることでありますが、その際に「ご本人に必要なケアは何か」「その施設で対応が可能なのか」「ご家族の不安の大きさ」「他施設、他機関との連携」などが大きな課題になると思われまます。当センターも利用者が一昨年度に気管切開術を受けてから、上記の課題に取り組んでまいりました。ご家族や、多くの関係者との相談や話し合いを通じて私たちの得たことなどをありのまま報告いたしました。現在も未解決の課題はあり、途中経過ではありますが、発表をしたことで気づいたことも多くありました。

発表に承諾していただきましたご家族には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

今回得た経験や私たちの発表に対するご意見などは職場でも共有し、今後活かしていきたいと考えています。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ライブラリや各科の紹介など、リニューアルしました!